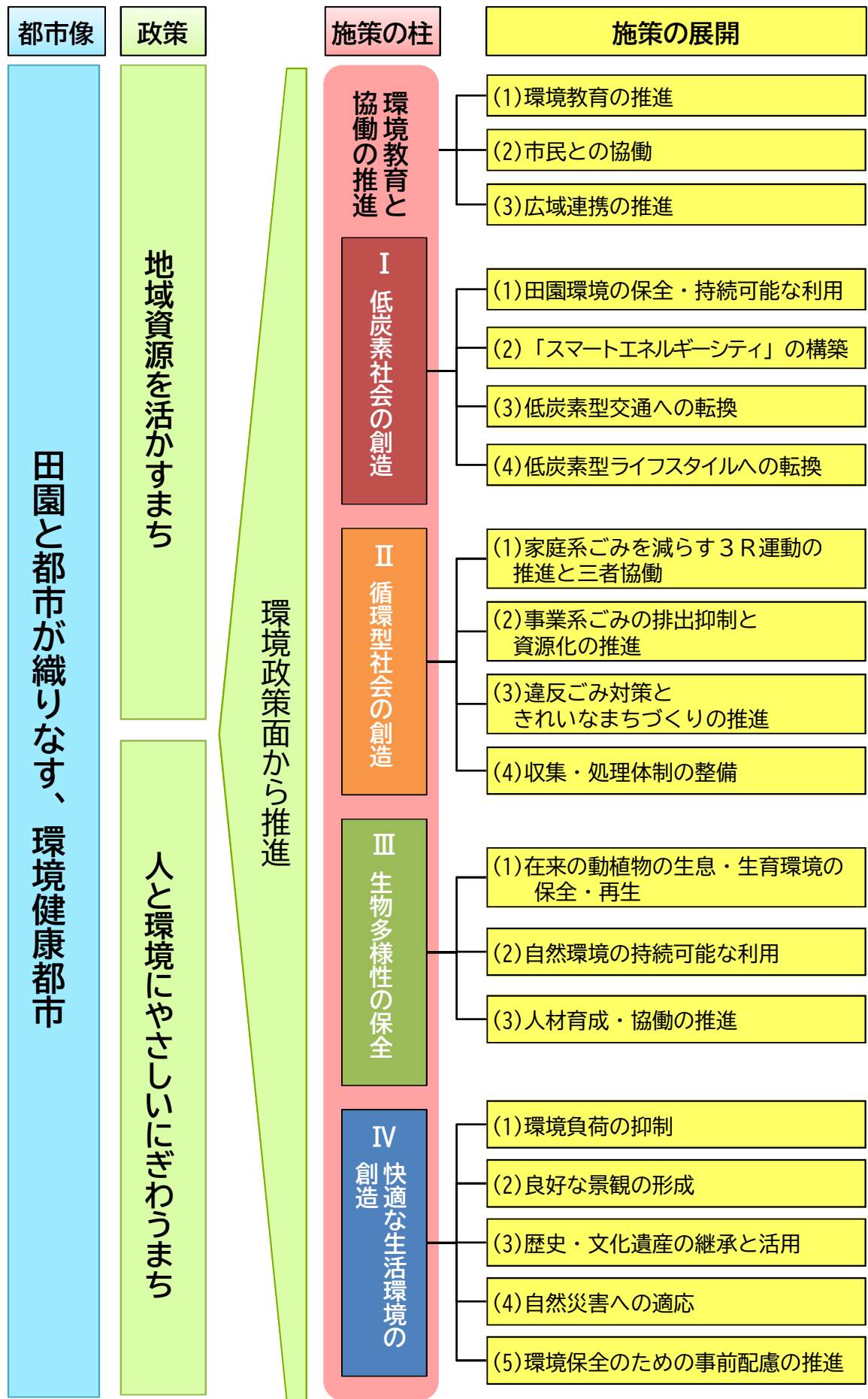


第3次新潟市環境基本計画の評価指標について

1. 施策の大綱



2. 評価指標の達成状況

I 低炭素社会の創造	計画時点 [2018(H30)年度]	実績 [2020(R2)年度]	短期目標 [2024(R6)年度]
1世帯あたりの二酸化炭素排出量 (家庭部門排出量/世帯数) ※ <sub>1</sub>	4.2t-CO <sub>2</sub> /世帯※ <sub>2</sub>	4.2t-CO <sub>2</sub> /世帯※ <sub>3</sub>	3.6t-CO <sub>2</sub> /世帯
市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量 (産業・業務部門排出量/市内事業所数) ※ <sub>1</sub>	96.2t-CO <sub>2</sub> /事業所※ <sub>2</sub>	93.3t-CO <sub>2</sub> /事業所※ <sub>4</sub>	96.3t-CO <sub>2</sub> /事業所
電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド(PHV)、燃料電池自動車(FCV)台数	EV: 833台 PHV: 671台 FCV: : 2台	EV: 1,040台 PHV: 829台 FCV: : 24台(県内)	EV: 2,500台 PHV: 2,800台 FCV: : 60台
区バス・住民バス利用者数 ※ <sub>5</sub>	52.1万人/年度	42.2万人/年度	39.2万人/年度

※<sub>1</sub> 1世帯あたり及び市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量について、算定に使用する「都道府県別エネルギー消費統計」が1990(H2)年度まで遡って改訂されたため、計画策定時点の値を修正。今後短期目標の見直しを行う。

※<sub>2</sub> 2016(H28)年度数値 ※<sub>3</sub> 2018(H30)年度数値 ※<sub>4</sub> 2017(H29)年度数値

※<sub>5</sub> 新型コロナウイルス感染症の影響により区バス・住民バスの利用者が大幅に減少したため、短期目標の値を修正。

II 循環型社会の創造	計画時点 [2018(H30)年度]	実績 [2020(R2)年度]	短期目標 [2022(R4)年度]
家庭系ごみ量(1人1日あたり) ※ <sub>1</sub>	488g	505g	475g
事業系ごみ排出量 ※ <sub>2</sub>	79,186t	71,161t	77,300t
リサイクル率 ※ <sub>3</sub>	26.4%	26.4%	27.1%
ごみ総排出量(1人1日あたり) ※ <sub>4</sub>	1,006g	990g	987g

※<sub>1</sub> 家庭系ごみ量:「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計

※<sub>2</sub> 側溝汚泥・ボランティア清掃などで排出される公共ごみ、資源化される食品残さを除く

※<sub>3</sub> リサイクル率=資源化量/総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より)

※<sub>4</sub> 全てのごみの合計÷人口÷年間日数

III 生物多様性の保全	計画策定時点 [2013(H25)年度]	実績 [2020(R2)年度]	目標 [2022(R4)年度]
生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数 (7,700羽)	現状を維持 (14,958羽)	現状を維持
特定外来生物の種類	10種	14種	現状より減少
環境保全型農業を実施する農地の割合 ※ <sub>1</sub>	34.4%	25.27%	50%

※<sub>1</sub> 主食用水稲作付面積に占める化学合成農業・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合

IV 快適な生活環境の創造	計画策定時点 [2013(H25)年度]	実績 [2020(R2)年度]	目標 [2022(R4)年度]
生活環境における空気のおきれいさ ※ <sub>1</sub>	0.007ppm	0.005ppm	現状より低減
沿道における空気のおきれいさ ※ <sub>2</sub>	0.009ppm	0.007ppm	
水がよりきれいなランク※ <sub>3</sub> になった河川・湖沼の水域数	-	0地点	3地点
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体	51団体	70団体
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48%	47%	60%
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合 ※ <sub>4</sub>	78%※ <sub>5</sub>	85.3%	90%

※<sub>1</sub> 一般環境大気測定局における二酸化窒素濃度

※<sub>2</sub> 自動車排ガス測定局における二酸化窒素濃度

※<sub>3</sub> ランクとは、河川・湖沼の類型(AA、A、B、C、D、E)に相当するようおきれいさとし、項目としてBOD75%値/COD75%値で評価

※<sub>4</sub> 農地、水路、農道等の質的向上を図る共同活動を支援する「資源向上支払交付金(多面的機能支払交付金事業)」の対象農地の割合

※<sub>5</sub> 当該項目のみ2014(平成26)年度の数値を記載

3. 評価指標の推移

環境教育と協働の推進											
指標項目	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
低炭素社会の創造、循環型社会の創造、生物多様性の保全、快適な生活環境の創造の各施策に掲げる目標を、当該施策に掲げる指標とする。											
I 低炭素社会の創造											
指標項目 (H27～H30)	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
市域の温室効果ガス排出量	710万 t-CO2	(2011(H23))	685万	686万	661万	635万	—	—	—	—	624万 t-CO2 (2018(H30))
★ もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用	—	(—)	活用を検討	モニター事業 で活用	モニター事業 で活用	民間で活用	—	—	—	—	活用の実現 (—)
太陽光発電システム導入量(10 kW 未満)	18,000 kW	(2013(H25))	18,000	27,700	30,265	33,305	—	—	—	—	36,000 kW (2018(H30))
自動車利用の削減	—	(—)	—	—	2.6%増加	2.6%増加	—	—	—	—	2.5% 削減 (—)
1世帯あたりの電気使用量(年間)	3,612 kWh	(2013(H25))	3,465	3,334	—	—	—	—	—	—	3,160 kWh (2018(H30))
指標項目 (R1～R4)	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
1世帯あたりの二酸化炭素排出量	4.2 t-CO2/世帯	(2016(H28))	—	—	—	—	4.5 (H29確定値)	4.2 (H30暫定値)			3.6 t-CO2/世帯 (2024(R6))
市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量	96.2 t-CO2/事業所	(2016(H28))	—	—	—	—	97.4 (H29確定値)	93.3 (H30暫定値)			96.3 t-CO2/事業所 (2024(R6))
電気自動車(EV)、 プラグインハイブリッド自動車(PHV)、 燃料電池自動車(FCV)台数	(EV) 833 台 (PHV) 671 台 (FCV) 2 台	(2018(H30))	—	—	—	—	(EV) 951 (PHV) 743 (FCV) 10	(EV) 1,040 (PHV) 829 (FCV) 24(県内)			(EV) 2,500 台 (PHV) 2,800 台 (FCV) 60 台 (2024(R6))
★ 区バス・住民バス利用者数	52.1 万人/年度	(2018(H30))	—	—	—	—	51.5	42.2			39.2 万人/年度 (2024(R6))
II 循環型社会の創造											
指標項目 (H27～H30)	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
家庭系ごみ量(1人1日あたり)	501 g	(2013(H25))	500	488	487	488					474 g (2019(R1))
事業系ごみ排出量	84,962 t	(2013(H25))	78,224	78,399	79,267	79,186					74,500 t (2019(R1))
リサイクル率	27.2 %	(2013(H25))	27.8	27.9	26.7	26.4					30.9 % (2019(R1))
最終処分量	29,213 t	(2013(H25))	22,350	21,712	22,319	24,261					21,800 t (2019(R1))
指標項目 (R1～R4)	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
家庭系ごみ量(1人1日あたり)	488 g	(2018(H30))	—	—	—	—	492	505			475 g (2022(R4))
★ 事業系ごみ排出量	79,186 t	(2018(H30))	—	—	—	—	78,718	71,161			77,300 t (2022(R4))
リサイクル率	26.4 %	(2018(H30))	—	—	—	—	25.7	26.4			27.1 % (2022(R4))
ごみ総排出量(1人1日あたり)	1,006 g	(2018(H30))	—	—	—	—	1,001	990			987 g (2022(R4))
III 生物多様性の保全											
指標項目	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
★ 生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数	(2013(H25))	現状を維持	現状を維持	現状を維持	現状を維持	現状を維持	現状を維持			現状を維持 (2022(R4))
特定外来生物の種類	10 種	(2013(H25))	11	11	11	12	13	14			現状より減少 (2022(R4))
環境保全型農業を実施する農地の割合	34.4 %	(2013(H25))	35.64	35.91	35.4	30.4	26.44	25.27			50 % (2022(R4))
IV 快適な生活環境の創造											
指標項目	基準値	(年度)	実績値								目標値
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
★ 生活環境における空気のきれいさ(一般局・NO <sub>2</sub> ) 沿道における空気のきれいさ(自排局・NO <sub>2</sub> )	0.007 ppm 0.009 ppm	(2013(H25))	0.007 0.009	0.006 0.007	0.007 0.009	0.005 0.007	0.005 0.007	0.005 0.007			現状より低減 (2022(R4))
水がよりきれいなランクになった河川・湖沼の水域数	—	(—)	0	0	0	-1	1	0			3 地点 (2022(R4))
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30 団体	(2013(H25))	80	70	78	67	82	51			70 団体 (2022(R4))
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48 %	(2013(H25))	49	47	54	54	54	47			60 % (2022(R4))
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合	78 %	(2013(H25))	83.7	84.3	85.7	86	85.7	85.3			90 % (2022(R4))